

宜 基 渉 第 34 号
令和元年 5 月 23 日

第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
エリック M. スミス中将 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場へのジェット戦闘機飛来並びに米軍機による夜間騒音被害について（抗議・要請）

まちのど真ん中にある普天間飛行場は、市街地と隣接していることから、航空機事故の危険性や、騒音等による基地被害が市民の大きな負担となっている。

特にジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来に伴う騒音については、市民生活に甚大な影響を与えることから、本市はこれまで、あらゆる機会を通じて普天間飛行場への外来機の飛来禁止を強く要請している。

再三の抗議・要請を行っているにも関わらず、5月16日にはF35Bの飛来により上大謝名局で過去最大となる124.5デシベルの騒音が測定されており、また、一昨日にはFA18Cの飛来により、各測定局で100デシベルを超える大きな騒音が確認されている。

加えて、22時以降の夜間騒音についても被害は深刻であり、例年夏にかけて夜間騒音件数が増加する傾向にあるなか、5月7、8、16日には深夜0時近くまで騒音が確認されており、本市へも苦情が多数寄せられている。

市民の負担は既に限界を超えており、市としても市民が実感できる危険性除去及び基地負担軽減を強く求めている中で、このような更なる騒音被害は断じて容認できるものではなく、極めて遺憾であると言わざるを得ない。

については、外来機であるジェット戦闘機の普天間飛行場への飛来並びに米軍機による夜間騒音被害に厳重に抗議するとともに、市民生活に十分配慮するよう強く要請する。

また、問題の抜本的解決に向け、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と速やかな運用停止をはじめとする返還までの間の危険性の除去及び基地負担の軽減を早急に実現するよう強く要請する。